

1. 落葉集積所設置の意義

自然界の場合は、微生物・植物・動物・土壌により、土壌が植物に栄養を供給し、落葉・落枝が小生物・微生物の分解を通して土壌に還元され、それがまた植物に利用されるという物質循環が働いている。また、生物多様性においては動植物のみならず、微生物の多様性にも配慮する必要がある。できるだけ自然界の物質循環を働かせるようにすることにより、土壌の団粒化、樹木の健全な育成が図られ、廃棄物の削減とともに維持管理費の軽減にも寄与する。

落葉集積所を設置することにより、落葉処理費の軽減とともに、有効利用を図ることにより土壌微生物及び小生物の棲み家を供給し、土壌微生物の多様性にも寄与する。また、土壌微生物は周辺の土壌を改良することができる。

2. 落葉集積所での留意点

設置上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ① 落葉集積の箱は、土壌微生物が生息し、増えて周辺の菌根菌が増殖するために床面は開けたボックスとする。できるだけ分散して植え込み内に配置する。 ② ボックスのサイズは縦 60～200cm、横 60～200cm、高さ 60～120cm前後。 ③ 素材はワイヤーメッシュ(50×50)、ラティスフェンス、再生プラスチックボード等。 ④ 設置する場合は 30cm前後土を掘り、はじめの有機物が土壌になじむようにする。 ⑤ ボックスは大地にそのまま設置をするか、少し埋めて動かないようにする。 ⑥ 間伐材や伐採材を使用して枠をつくることも考えれる。
使用上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ① 病気の葉や草は投入しない。 ② 腐葉土を作るので生ゴミは投入しない。 ③ 枯れ枝などの木は分解しづらいので投入しない。 ④ 1年後に腐葉土として土壌改良等に利用することも考える。

	
<p>・ラティスフェンス落葉集積所</p>	<p>・落葉集積所周辺の左の3年後の樹木の生育</p>
	
<p>・再生プラスチックの落葉集積所</p>	<p>・埋め込んだワイヤーメッシュ籠の小さな落葉集積所</p>

3. 落葉集積BOX例

